

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H05058	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	微細マイクロプラスチックの動態を含む海洋プラスチック循環の包括的解明	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	磯辺 篤彦 (九州大学・応用力学研究所・教授)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、プラスチックごみが自然環境下での劣化と破砕により微細化したマイクロプラスチックに着目し、その海洋環境下における挙動を定量的に解明することを目的としている。マイクロプラスチックの発生と海洋輸送、そして消失の諸過程を包括的に計測することにより、海洋環境におけるマイクロプラスチックの分布と動態を明らかにする。</p>		
(意見等)		
<p>本研究は、世界的な問題となっているマイクロプラスチックについて、その環境中動態を明らかにし本課題の解決に資するための基礎的なデータを得ている。マイクロプラスチックは、その現場である海洋中において、発生、移動、消失が起きていると考えられるため、その環境中動態を知ることは非常に困難であるが、意欲的に挑戦している。マイクロプラスチックの素材、表面のエージングや形状などによって挙動が異なると推察できるが、まずは全体を把握することが重要であるという点においては成功していると評価できる。さらに、海洋から採取されるマイクロプラスチックが海洋の環境で生成するマイクロプラスチックを代表するものであることを証明することや、測定時のコンタミネーションなどにも配慮している点も評価できる。</p>		